ボーリング柱状図

調　査　名　平成16年度標津断層帯調査業務委託

ボーリング№　1 5

事業・工事名　平成16年度地震関係基礎調査交付金事業

シート№　1

ボーリング名	S04-Yo-5	**調査位置**	標津郡中標津町字養老牛			**北緯**	43° 34' 18.6"
発注機関	北海道立地質研究所　地域地質部			**調査期間**	平成 16年 10月 16日 ～ 16年 10月 19日	**東経**	144° 44' 18.0"
調査業者名	サンコーコンサルタント株式会社　札幌支店 電話（011-837-5537）	**主任技師**	田邊　謹也	**現場代理人**	越谷　賢	**コア鑑定者**	渡辺 良夫・越谷 賢	**ボーリング責任者**	高橋　雅之
孔口標高	192.07m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方向**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平 0° 鉛直 90° 0°	**使用機種**	
総掘進長	17.00m					**試錐機**	鉱研0P-1	**ハンマー落下用具**	トンビ
						エンジン	ヤンマーNFD-13	**ポンプ**	

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	191.70	0.37	0.37		耕作土	黒褐			耕作によって撹乱される。	
	191.23	0.47	0.84		火山灰質シルト質砂	黒褐			礫混り火山灰質砂が挟在。最下部は腐植土。	
1	190.99	0.24	1.08		軽石	橙褐			逆級化。火山礫散在。(Km-1f)	
	190.42	0.57	1.65		火山灰質シルト質砂	褐			再堆積性の火山灰質砂(最上部･最下部)、火山灰?を挟在する腐植土からなる。	
2	189.25	1.17	3.82		軽石	橙褐～明黄灰			軽石形状、火山礫の含有率から3層に区分される。(Ma-g～i)	
3	189.16	0.09	2.91							
	188.77	0.39	3.30		火山灰	灰			葉理発達。細粒ガラス質。(Ma-j)	
					火山灰質砂質シルト	褐灰			上部はMa-kを挟在する腐植土。下部は塊状で軽石が散在する。	
4	187.36	1.41	4.71		軽石	橙褐～黄褐灰			径2～30mmが主体で最大径50mm。角～亜角礫が散在する。最下部は逆級化。(Ma-l)	
5	187.11	0.25	4.96		火山灰質シルト	灰褐～灰			ローム質。上部に炭質木片混在。	
6	185.22	1.89	6.85		礫混り火山灰質砂質シルト	褐～褐灰			塊状、不淘汰。亜円礫(径2～30mm主体で所によって径40～60mm)が混在する。礫種は凝灰岩･安山岩･軽石。 5.6～6.85m:葉理明瞭。10～15°で傾斜。	10/16 6.60
7					玉石混りシルト質砂礫	褐灰			径10～70mmの亜角～円礫。所々切長50～70mmの安山岩玉石が混在する。礫種は安山岩･緑灰色凝灰岩。腐り礫が見られる。基質は火山灰質なシルト質砂。 7.3～7.85m:基質はシルト分多含し、礫径小さいものが多い。	
8										
9										
10										
11										
12										
13	178.97	6.25	13.10		火山礫凝灰岩	褐灰～黄褐灰			径2～10mmの亜角～亜円の風化礫(安山岩?)が散在する。(幾品層) 16.95～16.08m:凝灰質シルト岩が挟在する。 16.08～16.34m:暗褐灰色砂岩の薄層が数層挟在。10～15°で傾斜。	
14										
15										
16										
	175.35	3.62	16.72							
17	175.07	0.28	17.00		凝灰質砂質シルト岩	明褐灰			葉理発達。10～15°で傾斜。	

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60

原位置試験

深度(m)	試験名および結果

試料採取

深度(m)	試料番号	採取方法
0.37	S01	Yo-5-0.37
0.57	S02	Yo-5-0.57
0.74	S03	Yo-5-0.74
1.08	S04	Yo-5-1.08
1.33	S05	Yo-5-1.33
1.45		
4.77	S06	Yo-5-4.77
4.82		

室内試験(　)	掘進月日
	10/16
	10/17
	10/18